

平成 26 年 度
組 合 運 營 方 針

泉北環境整備施設組合

管 理 者 阪 口 伸 六

平成26年度 組合運営方針

平成26年度の予算（案）をご審議いただきます前に、管理者としての組合運営方針を申し述べ、議員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

我が国の経済は、安倍晋三内閣の経済政策「アベノミクス」の効果により、長期間低迷していた日本経済に回復の基調が見られ始めております。

しかしながら、本格的な景気回復については、中小企業をはじめ広く国民生活に至るとの実感が行き渡っている現状にはありません。

また、本年4月からの消費増税による影響などを鑑みると、まだまだ楽観できる状況ではございません。

こうしたなか組合市の財政状況に目を向けますと、先の景気状況や少子高齢化の進展による、法人・個人市民税の伸びも期待できず、地価の低迷による固定資産税の減収により市税収入も厳しく、地方交付税等の財源についても不安定な要素があります。

一方、歳出面では本格的な高齢社会を迎え、扶助費が増加の一途をたどるなど厳しい財政運営を余儀なくされています。

そのようななか、本組合としては、平成19年度より進めてきた経

営改革プランをさらに推進すべく昨年12月に定員管理計画を策定しました。

また、長年にわたり進めてまいりました組合下水道事業につきましては、都市下水路を除き平成25年度をもってその役割を終えることから、今後は、清掃事業を中心とした環境行政を担うべく組織を集約し、「ごみの減量化とリサイクルの推進」を積極的に進めてまいりますのでございます。

また、さらなる「行財政改革の推進」を図り、「最小の経費で最大の効果」の基本理念のもと、平成26年度の予算（案）を編成いたしました。

それでは、平成26年度予算（案）につきましてご説明申し上げます。

平成26年度予算（案）は、

一般会計	4,632,090千円
廃棄物発電事業特別会計	420,010千円
公共下水道事業特別会計	29,000千円
合 計	5,081,100千円

となっております。

これを前年度比較いたしますと、

一般会計	600,825千円の増
廃棄物発電事業特別会計	156,000千円の増
公共下水道事業特別会計	2,153,720千円の減
合 計	1,396,895千円の減

となったものでございます。

まず初めに、平成26年度一般会計予算（案）に掲げる主要施策からご説明申し上げます。

まず、さらなる「行財政改革の推進」についてであります。

事務管理分野では、組合運営の総合調整管理を担う予算を計上しました。

すでに平成19年度から取組みを進めてきた「経営改革プラン」にもとづき、平成19年度当時100名の体制が、平成25年度には61名に、人件費総額で約49%の削減を行ってきたところですが、今般さらに平成25年度末の下水道事業の終焉、また、ごみ処理におけ

る資源循環型社会の推進等、様々な課題に的確に対応すべく組織活力を確保するため平成25年度に定員管理計画を策定し、目標年度の30年度には、現在の61名体制を47名に、人件費総額について約26%の削減を目指し、民間活力等を用いることでより効率的かつ効果的な業務の遂行に努めてまいります。

各事業につきましては、まず、し尿処理については、平成18年度に、し尿処理、浄化槽処理ラインを一本化し、平成20年度には、下水道普及率向上に伴い処理量が減少傾向であることから処理量を見極め、第3事業所を休止し、第1事業所単独での処理を行うなど効率的な施設の運営に努め、経費の抑制を図っております。

平成26年度の整備工事では中央制御室監視盤の更新を行い、稼働以来27年が経過し経年劣化が進んだ施設の延命化を図り、維持管理経費の削減に努めてまいります。

次に、「ごみの減量化とリサイクルの推進」についてであります。

まず、ごみの減量化については、これまで組合市とともに積極的に取り組みを進めてまいりました。その結果、ごみの焼却量については平成9年度の約12万5千トンピークに、平成24年度では約9万トンと約28%減少し、従前の3炉運転から2炉運転に縮小できるとなりました。

休止した5号炉については、ごみピットの改修を行うことにより年間約9千万円のランニングコストの削減を達成しています。今後も、より一層効率的な焼却炉の運転を図り経費の削減に努めてまいります。

平成26年度は焼却炉1・2号炉について、稼働以来早11年が経過し、経年劣化により燃焼室上部の水管の取替えを行うなど延命化を図り、長期的かつ適正な運転管理ができる維持管理を行います。

また、「資源化センター整備計画」をもとに、平成26年度には第3事業所設備の撤去工事等を進めながら建設に伴う実施設計業務を行い、本年11月を目途に建設工事を着工し、平成28年4月1日の供用開始に向けて取り組んでまいります。

なお今後、建設工事の進捗に合わせ管理運営形態のあり方についても、専門家の意見をいただきながら検討を進めてまいります。

次に「リサイクルの推進」についてであります。

これまで組合では、搬入される粗大ごみを破砕機で処理を行い、金属類を回収した後、残渣は最終的には焼却してまいりました。

国が提唱する3Rにみられるように今やリサイクルの推進は、先進国である我が国が率先して取り組むべき課題であり、本組合としても破砕・焼却するのみではなく、再利用可能なものはリサイクルに取り組んでまいります。

先般、組合議会の視察研修で高松市と上勝町を訪問し、両市町の規模の違いがあるもののリサイクルの取組を拝見致しました。

特に、究極のごみゼロ社会を目指す上勝町の“ゼロウェイスト”の取組みには、深く感銘を受けました。

本組合としても、今般、搬入される粗大ごみの中から再使用できるものを選別し、リユース・リサイクルを推進・啓発を進めるために市民の皆様にも PR しながら、組合市とともに積極的に取り組み循環型社会の形成につなげてまいりたいと考えております。

次に、都市下水路では、平成25年度から4カ年計画で、潮位の影響により腐食の著しい矢板護岸の改修工事を施工しておりますが、今年度も引き続き実施し、周辺住民への臭気防止や市街地への浸水防除など王子川都市下水路の適切な維持・安全管理に努めてまいります。

以上が、一般会計における主要施策の概要でございます。

続きまして特別会計について、まず、廃棄物発電事業特別会計につきまして、泉北クリーンセンターにおいてごみ焼却時に発生する熱エネルギーを回収、利用することにより、年間約5千万キロワットの電力を作り出すことができ、施設内の電力供給はもとより、余剰分は電力会社に売電するサーマルリサイクルを行っています。

温室効果ガス発生抑制による地球温暖化防止への率先した取組みは

もちろんのこと、財源として平成26年度では、発電収入約4億2千万円の歳入を計上いたしました。

今後も、組合市分担金の軽減に繋げるべく効率的な運転に努めてまいります。

次に、公共下水道事業特別会計では、組合市に移管され、平成26年度は、本組合の事業は、ございません。

以上が、特別会計における主要施策の概要でございます。

次に、歳入予算の組合市分担金につきましてご説明申し上げます。

平成26年度の組合市分担金は、

公共下水道事業特別会計の分担金は、発生いたしません。

一般会計 3,479,203千円

のみの分担金となっております。

これを前年度比較いたしますと、

一般会計 471,420千円の増

公共下水道事業特別会計 589,734千円の減

合 計

118,314千円の減

となったものでございます。

今後も地域の環境整備を担う基幹施設としての役割をしっかりと認識し、「ごみの減量化とリサイクルの推進」を基本政策として、さらなる「行財政改革の推進」により、常に行政コストの削減に留意しながら、「最小の経費で最大の効果」を生むべく、より効率的かつ効果的な体制で、循環型社会の形成に資することができるよう、常に組合市としっかり連携を図りつつ、市民の皆様のご理解とご協力を頂きながら積極的に取り組んでまいります。

以上が、平成26年度の予算（案）と主要施策の方針でございます。

組合を取り巻く環境は、一段と厳しい状況にありますが、正副管理者と職員一同が一丸となって、この厳しい局面を乗り越えてまいり所存でございますので、議員の皆様方におかれましては、一層のご理解とご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。